

各 部 長 様

市 長

令和3年度政策（6月補正）予算の編成について（示達）

政府は、日本経済の状況について、3月の月例経済報告において『新型コロナウイルス感染症の影響により依然として厳しい状況にあるが、持ち直しの動きがみられる。先行きについては、感染拡大の防止策を講じつつ、社会経済活動のレベルを引き上げていく中で各種政策の効果や海外経済の改善もあって、持ち直しの動きが続くことが期待される。ただし、経済の水準は依然コロナ前を下回っており、また感染症が国内経済を下振れさせるリスクや金融資本市場の変動等の影響を注視する必要がある。』とし、感染拡大防止と社会経済活動の両立を図りつつ、ポストコロナの新しい社会の実現を目指し中長期的な成長力強化の取組を推進していくとしている。

本市の財政状況については、令和3年度予算見積事務取扱要領に示したとおりであるが、今後の見通しとして、税収は新型コロナウイルス感染症の影響や人口減少下において減収は明らかな状況にあり、普通交付税についても合併特例期間が令和2年度で終了したことなど、各種事業を推進する環境がより一層厳しさを増していくことが見込まれる。

このような状況の中、「施策の推進」と「財政の健全性の維持」の両立を図る必要があり、限られた財源の中で前例にとらわれず見直すべきは果敢に見直すとともに、真に必要な施策を厳選し、効果的・効率的な予算の編成に努めることとする。具体的には、施策の重点化を図るため、第2期東近江市まち・ひと・しごと創生総合戦略の基本目標に沿って市政を推進することとする。こうしたまちづくりの実現には、市民の声に耳を傾けながら市民サービスの向上に努めていく必要があり、厳しい財政状況の中にあっても職員一人ひとりが行政のプロであるとの意識を強く持ち、創意工夫による予算編成となることを期待する。

予算編成の基本方針

私が市長に就任して以来、市民の一体感の醸成を早期に図り、東近江市の土台づくりを行うため、様々な施策を実施するとともに、市民の「声なき声」に耳を傾け、これまで先人が英知を結集し、築き上げてきた東近江市の礎を確固たるものとしつつ、10年、20年先を見据えた施策に取り組んできた。

今後においても、鈴鹿の山々から琵琶湖までが一つの市域となった広大かつ多様性のある自然、千年を超える歴史、文化、伝統が蓄積されてきたスケールメリットをいかしたまちづくりを進めるとともに、地域間競争に勝ち抜き素晴らしい東近江市をつくるため様々な施策に取り組むこととする。特に、直面する新型コロナウイルス感染症対策にあっては喫緊の最優先課題として取り組むこととする。

財政状況については、今後も財政の硬直化を懸念しており、財政運営の健全化や弾力性の維持を図ることが課題となっているが、将来に禍根を残さないよう地域経済の活性化や都市基盤整備、子育て支援をさらに強化するなど、より強く、より優しい東近江市を目指す。

そのために、短期的に対応できる課題についてはスピード感を持って、長期的な視点が必要な課題については最初の一步を踏み出すことを念頭に、第2期東近江市まち・ひと・しごと創生総合戦略の基本目標に基づき、魅力あるまちづくりに取り組むこととする。

第2期東近江市まち・ひと・しごと創生総合戦略

- 基本目標1 働き住み続けたい活力ある東近江市の創生
- 基本目標2 行きたい住みたい魅力ある東近江市の創生
- 基本目標3 若い世代が希望をかなえる夢のある東近江市の創生
- 基本目標4 誰もが安心して暮らせる豊かな東近江市の創生